

交通体系再編基本方針(案)について

まちづくりマスタープラン（平成24年3月）

●夕張での生活を支える、公共交通ネットワークの再編

交通事業者・行政・民間の連携による各交通モードの役割分担や、効率的な交通網の形成を図ります。

生活交通ネットワーク計画（平成25年3月）

●住民の移動実態に配慮した交通体系の構築

市内移動は、本町～清水沢～紅葉山間の南北軸の公共交通サービスの維持・改善を図り、市外移動は、乗り換え1回で市外交通とアクセス可能となるよう改善を図る。また、南北軸以外ではデマンド交通など効率的な交通システムの検討や、福祉輸送など多様な交通サービスの連携により、自家用車が利用できない住民の生活の足の確保を図る。

●財政負担に配慮するとともに、将来の都市構造を踏まえた持続可能な交通体系の構築

アンケート結果によると、市民からは財政負担に配慮した交通体系の構築が求められている。また、都市構造の変化に柔軟に対応、かつ、まちづくりと連動した交通施策の展開が必要である。

交通体系再編基本方針

1

様々な交通資源を効率的に組み合わせ、小・中・高の児童・生徒の輸送を第一に市民の足を確保する。

2

社光～新夕張駅間は「南北軸幹線」とし、移動実態に合わせた運行とする。

3

南部、真谷地、楓・登川、滝の上地区は支線とし、南北軸上で南北軸幹線と接続させる。

4

「都市間幹線」は若菜、清水沢交通結節点で南北軸幹線及び支線と接続させる。

5

小規模輸送を担うNPO等の交通事業体を育成し、交通体系の充実を図る。